

日本産業衛生学会

## 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学地域健康医学教室内  
専用TEL・FAX.0744-22-1801  
発行責任者・車谷典男(地方会会長)

## 第58回近畿地方会総会を終えて

近畿地方会会長 車谷典男



地方会会長を担当させていただき2年目を迎えました。この1年間で当初の事業計画通り実施でき、また、今年度の新しい事業計画案と予算案をご承認いただいたのは、近畿選出の4理事(岡田理事・廣部理事・山田理事・大脇理事)と圓藤本部監事、清田地方会副会長を中心とする総勢27名の幹事の皆様と、廣田監事および植本監事、さらに代議員、会員の皆様のご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。奈良医大の私の教室に置いた地方会事務局も何とか軌道に乗り、日常的な業務はこなせるようになりました。引き続き努力をしていくつもりでおりますので、会員皆様方からの叱咤激励を是非よろしくお願い申し上げます。

紙面をいただきましたので、この機会に地方会運営に関連していくつかご報告申し上げます。

- 1) 今年度は役員選挙の年です。幹事会の承認を経て選挙管理委員会を立ち上げ、互選で土手友太郎大阪医大教授が委員長に就任されました。今後、選挙管理委員会からの郵便物が何回か届くかと思えます。選挙権者と被選挙権者の必須条件は「前年度から引き続き学会の正会員であって、7月末日時点で会費を納入していること」ですので、会費を7月末日までに確実に納入していただきますようお願い申し上げます。
- 2) 本学会の公益社団法人への移行については、すでに福井での学会総会の折に大前理事長からご説明のあった通りであります。理事会としては移行することを決定しています。提案された定款改正案について、この一年間、会員間で論議を深め、最終的に来年の東京での総会の際に投票で是非を問うことが予定されています。地方会では「規定類検討委員会」(宮上委員長)で先行して論議を開始しているところですが、具体的提案がでたことから、更に論議を進め、委員会としての一定の結論を出していただくことをお願いしています。
- 3) 地方会のホームページ(HP)の充実を図るために、中西幹事を委員長とした検討委員会から提案を受ける形で、①現行HPの閉鎖(決定)、②地方会ニュースとの役割分担の明確化、③HPのコンテンツ案、④更新の事務手続き、⑤経費見積もり、などについて幹事会で論議を続けています。地方会事務局にFAX等でご意見をいただければ幸いです。来る9月6日の第2回幹事会で基本方針を決定し、今期中の早い時期に新しいHPを立ち上げる計画です。
- 4) 日本医学会総会(4年に一度)が来年東京であり、

その4年後(2015年)に京都が予定されています。この時期に合わせた第88回日本産業衛生学会は近畿地方会が主催することになる見通しです。その準備として特別会計を組むことについて幹事会で論議しています。

- 5) 地方会の事業は、学会本部からの助成金(1500円/人)と地方会年会費(2000円/人)で支えられています。事業の一層の活性化には財源確保が不可欠です。昨年、初めて会費納入の督促(リマインド)をさせていただきました。それにこたえて約100名の会員の方からの納入をいただきました。会費の有効活用のため幹事会、事務局とも一層の努力をしてまいります。ご協力の程よろしくお願いいたします。
- 6) 幹事会で、より多くの一般会員の意見を学会運営に反映させる方策を検討しています。たとえば、年1回の地方会の時に、地方会長や近畿選出理事と会員との意見交換会などを開催することです。物理的に時間の確保ができるかなどの問題がありそうですが、可能性を探ってみたいと思います。
- 7) 過去10年余り継続してきた産業医学実践講座は、主には参加希望者の減少のため、開催が困難な状況が続いています。実践講座実行委員会の河野委員長を中心にごどうするか答申をまとめていただいています。それを受けて幹事会で最終的な方向性を論議する予定です。

最後に、地方会として最大の事業である近畿産業衛生学会(第50回)が、木村隆会長のもと本年11月14日(日)に「ピアザ淡海」(滋賀県立県民交流センター)で開催されますが、より多くの会員の皆様に参加されることをお願い申し上げます。



## 平成22年度総会議事録

日 時 2010年6月5日(土) 13:00～13:50

場 所 大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

### 1. 開会

### 2. 地方会長の挨拶

### 3. 昨年度物故会員の報告と黙祷

皆川 正雄(みながわ まさお)氏

三島 衛(みしま まもる)氏

大東 正明(おおひがし まさあき)氏

### 4. 議長選出

河合俊夫会員(中災防大阪労働衛生総合センター)を選出

### 5. 総会成立の確認

5月15日現在の地方会員数1266名のうち出席者74名(委任状386名)。会員の5分の1以上の出席により総会は成立(地方会会則第18条)。

### 6. 議事録署名人の選出

西尾久英会員(神戸大学)

土手友太郎会員(大阪医科大学)

### 7. 議 事

#### (1) 平成21年度事業報告(清田副会長)

地方会ニュース第82号(本年5月15日発行)の3頁と4頁に掲載された資料をもとに事業報告があり。会場からは異議なく承認。

#### (2) 平成21年度決算報告(清田副会長)

地方会ニュース第82号2頁に掲載された収支報告に基づき報告あり。会場からは異議なく承認。

#### (3) 平成21年度監査報告(廣田昌利監事)

廣田昌利監事(平成22年4月12日)と植本寿満枝監事(同22年4月9日)が、地方会事務局(奈良医大)で監査を行い、決算書類にかかわる通帳など証拠書類が適切に管理され、執行が適切に行われていることを確認した旨の報告があった。

#### (4) 平成22年度事業計画案(清田副会長)

地方会ニュース第82号5頁に掲載された資料に基づき説明。会場からは異議なく承認。

#### (5) 平成22年度予算案(清田副会長)

地方会ニュース第82号2頁の予算(案)に基づき説明。総会前の代議員会での指摘を受けて、車谷会長は本部助成額190万円を189万円に訂正し、支出予算のうちの予備費の50万円を49万円に訂正する修正案を提案し、この修正案を含め承認。

#### (6) 第50回近畿産業衛生学会の進捗状況

木村隆会長から、本年11月14日(日)に「ピアザ淡海」(滋賀県立県民交流センター)で開催に向けて順調に準備が進められていることの報告があった。一般演題発表終了後に本部産業歯科保健部会の加藤元先生による教育講演を予定しているとの説明があった。

#### (7) 第51回近畿産業衛生学会の準備状況

夏目誠会長から、2011年11月5日(土)、奈良県文化会館(奈良市)で開催し、特別講演はうつ病関連で名古屋大学精神医学教室の尾崎教授に依頼、懇親会は猿沢の池近辺を予定しているとの報告があった。

#### (8) 地方会役員選挙の公示

土手友太郎選挙管理委員長から、今年度の地方会役員選挙の公示があった。

#### (9) その他

##### ① 地方会ホームページ等見直し検討委員会

中西一郎委員長から、uminの無料サーバー上に新しいHPを設置し、運営を新しい管理委託会社に委託する案で検討中との報告があった。

##### ② 規定類検討委員会からの報告

宮上浩史委員長から、次回第84回日本産業衛生学会総会で、公益社団法人移行の是非の投票が予定されているので、意見交換をすすめていく必要があるとの説明があった。

##### ③ 地方会ニュースの発行状況について

山田誠二理事から地方会ニュースが順調に発行されていることの報告があった。

##### ④ その他

出席者からの特に議事の提案はなかった。

### 8. 議長解任

### 9. 閉会

以上の議事録は、議事録署名人に指名された西尾久英会員と土手友太郎会員の承認を受けています。(地方会事務局)



## 平成21年度近畿地方会収支報告および平成22年度予算

### 1. 収入の部

科 目	21年度予算額	21年度決算額	22年度予算額
(1) 会費収入	2,000,000	2,407,000	2,000,000
正会員会費収入	1,700,000	1,954,000	1,700,000
特別会員会費収入	300,000	453,000	300,000
(2) 助成金収入	1,900,000	1,843,500	1,890,000
日本産業衛生学会助成金収入	1,900,000	1,843,500	1,890,000
(3) 事業収入	200,000	240,000	200,000
広告料収入	200,000	240,000	200,000
(4) その他収入	2,000	1,048	300,500
受取利息	2,000	1,048	500
役員選挙積立金より	0	0	300,000
当期収入合計	4,102,000	4,491,548	4,390,500
前期繰越収支差額	2,754,338	2,754,338	3,324,437
収 入 合 計	6,856,338	7,245,886	7,714,937

### 2. 支出の部

科 目	21年度予算額	21年度決算額	22年度予算額
(1) 事業費	3,350,000	2,539,311	3,350,000
①機関誌費	1,450,000	1,154,113	1,450,000
印刷費	500,000	495,709	500,000
広報活動費	150,000	47,020	150,000
通信運搬費	800,000	611,384	800,000
②助成金支出	1,150,000	850,000	1,150,000
近畿産衛学会開催助成金支出	400,000	400,000	400,000
産業医部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業看護部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
産業技術部会助成金支出	100,000	100,000	100,000
研究会補助金	300,000	150,000	300,000
研修会補助金	150,000	0	150,000
③例会事業費	750,000	535,198	750,000
地方会総会開催費	500,000	445,198	500,000
学術担当費	250,000	90,000	250,000
(2) 管理費	1,650,000	1,021,138	2,250,000
①運営費	850,000	470,162	1,750,000
幹事、代議員会費	150,000	92,162	150,000
役員選挙費	0	0	600,000
IT関連、ホームページ維持管理費	700,000	378,000	1,000,000
②事務費	800,000	550,976	500,000
事務局費合計	400,000	400,000	400,000
備品	200,000	61,280	0
消耗品費	100,000	66,946	100,000
地方会事務局移転費用	100,000	22,750	0
(3) その他支出	300,000	300,000	0
役員改選積立金支出	300,000	300,000	0
(4) 予備費	500,000	61,000	490,000
当期支出合計	5,800,000	3,921,449	6,090,000
当期収支差額	-1,698,000	570,099	-1,699,500
次期繰越収支差額	1,056,338	3,324,437	1,624,937
支 出 合 計	6,856,338	7,245,886	7,714,937

財産目録 (1)ノートパソコン・デル1台 (2)FAX(0744-22-1801) Panasonic 1台  
21年度の会計年度は平成21年3月1日から平成22年2月28日まで。

## 基調講演「受動喫煙防止に係る厚労省の新たな指針と事業場でとるべき喫煙対策」を拝聴して

大阪府警察本部  
健康管理センター

富永 なおみ



大和浩先生の講演は先日放映されたビートたけしの「みんなの家庭の医学」のVTRで始まりました。番組の中では「はたる族」のお父さんがベランダや台所の換気扇の下でタバコを吸い、その副流煙を知らないうちに家族が吸っている様子を実証されていました。「分煙はできない」これだけでインパクトは抜群です。最初から「大和ワールド」に引き込まれてしまいました。

そのあと、厚労省から出された「受動喫煙防止対策について」と「職場における受動喫煙防止対策に関する検討会報告書骨子案」の解説と、数々のエビデンスを織り交ぜながら「いわゆる分煙」ではなく「禁煙」へとつなげる説得力あるお話をしていただきました。

「受動喫煙防止対策について」は、配慮の必要な場所として公園、遊園地や通学路が具体的に挙げられたことは評価できるとのことです。ただし、「多数の者が利用する公共的な空間については、原則として全面禁煙であるべきである」、「すくなくとも官公庁や医療施設においては全面禁煙とすることが望ましい」とあるが、「原則として」や「望ましい」という表現は必要ない、というコメントは大いに納得できました。

「報告書骨子案」に関しては、受動喫煙防止対策を安全配慮義務の観点から義務化の方向で検討されていることや、全面禁煙を強く勧めていることは評価できるが、特定の業種や事業場に例外を設けないといいつつもサービス業を除外している矛盾点もあるそうです。このような文書は、「強制力はないけれども社会的な影響力は大きいので、職場環境改善のためにうまく使うといい」と言われたことがとてもいいヒントになりました。

先生の講演の中で一番印象に残ったのは、「いわゆる分煙」は意味がないと言われていたことです。どんな喫煙所を作っても副流煙の漏れは防止できないし、ランニングコストが非常に高いのでエコロジー的にもよくないとのこと。「いわゆる分煙」から建物内禁煙、敷地内禁煙、就業時間内禁煙と徐々に吸いにくい環境づくりを進めていくこと。それと同時に禁煙外来へ誘導し、禁煙支援を行っていくことが今後の喫煙対策の方向ではないかと思いました。

日々雑事に追われている私なので、喫煙対策に果敢に取り組んでおられる大和先生のお話を拝聴し、改めて職場の喫煙対策を強化しなければ、と襟を正すきっかけとなりました。

## 第58回近畿地方会 総会シンポジウムを拝聴して

(独)労働者健康福祉機構

大阪労災病院

勤労者予防医療センター

米山 貴子



夏の訪れを感じさせる気候となった6月5日、大阪市立大学医学部学舎にて「タバコフリー快適職場と禁煙サポート—今一度、職場の喫煙対策を考える—」をテーマとして第58回近畿地方会総会シンポジウムが開催されました。

初めに大阪府立健康科学センターの中村正和先生より、健診の場における禁煙の働きかけを通じた禁煙の動機づけの促進ときっかけづくりの必要性についてご享受いただき、的確な支援を個々のステージに沿って提供することの大切さを改めて感じました。また、組織へのアプローチにより会社全体の健康意識の向上が期待されると伝えられました。

京都府立医科大学の繁田正子先生からは、諸外国と日本との喫煙に対する意識の違いについて情報提供頂き、また、禁煙推進は衛生担当など特別な誰かのものではなく、誰もができることが大切と強調されました。皆でできる取り組みの推進が我々の役割だと考えました。

パナソニック株式会社の川谷暁夫先生は、屋内完全禁煙化を実現された取り組みの中で表出した課題や、実現後のアンケート結果を報告されました。従業員の方々の声や安全衛生委員会を通じた組織への働きかけについて、同じ課題を抱えておられる参加者の方が多く見受けられました。日々の取り組みのヒントになった方も多かったことと思います。

大阪府警察の葛目百合先生からは、禁煙支援の工夫や禁煙にまつわるアンケート調査結果の報告がありました。年代別の禁煙関心度や、喫煙と飲酒の関係など興味深いデータをご提示いただきました。喫煙者を減らすための禁煙支援はもちろん、若者の喫煙開始を防止する教育と啓発の必要性を強く感じました。

ディスカッションでは基調講演を賜りました産業医科大学の大和浩先生にも加わっていただき、職域のみならず、国全体の禁煙推進について活発な議論がなされました。私自身、シンポジウムに参加し、禁煙推進に対するモチベーションが高まりました。効果的な禁煙支援のため、自分自身が継続的に研鑽を積み、今後魂のこもった活動を行っていきたく思います。

## 第83回産業衛生学会印象記

株式会社大和証券グループ本社  
総合健康開発センター

(大阪医務室) 産業医  
家門 裕子



5月26日～28日、福井市で開催された第83回日本産業衛生学会に参加した。今回のメインテーマは「21世紀の新しい産業保健－リスク管理から疾病予防まで－」であった。

このメインテーマを見て、1997年から専属産業医をしている私は、自身の産業医としての経験を改めて思い返してみた。私が産業医になった当初は、すでにバブル経済は崩壊していたものの、企業にはまだ年功序列や終身雇用といった雇用システムが残っており、「社員は家族」という風潮もあった。このような就労環境を背景とし、有害業務管理や生活習慣病の二次予防に力を注いでいた。

その後、急速に旧来の雇用システムが崩壊し、成果主義や雇用形態の多様化が進むにつれ、産業保健に対するニーズも変化し、メンタルヘルスや過重労働対策が大きなウエイトを占めるようになった。生活習慣病対策ではメタボリックシンドロームの概念が導入され、特定保健指導が開始となり、昨年新型インフルエンザの流行は企業におけるBCP（事業継続計画）に産業保健スタッフが参加することの重要性を再認識することとなった。

本学会では、シンポジウムはじめ各セッションで、このような最近の労働環境を背景とした多様な問題に対しタイムリーな企画が多く、たいへん勉強になった。主催者のご高配に感謝したい。

また、例年本学会に参加するもうひとつの楽しみに、労働衛生の専門家以外の方々の講演を聞けることが挙げられる。今回も、メインシンポジウム1の坂本光司先生と塚越寛氏、特別講演の鎌田實先生などのご講演を拝聴でき、労働衛生以外の視点から産業保健を見直すきっかけを与えていただいた。特に坂本先生の「企業の存在意義は社員とその家族を永遠に幸せにすること」というお話は、健康が「幸せ」を実現するためのひとつの手段であると考える私にとっては、企業内での自身の仕事の意義を再確認できたように感じた。

最後に個人的なことだが、私は福井医科大学（現福井大学医学部）出身で、学生時代の6年間を福井の地で過ごした。今回の学会で久しぶりに同地を訪れる機会に恵まれ旧友と再会できたのも、今学会のありがたい副産物であった。

三井住友銀行  
大阪本店健康開発センター

垣本 洋希



第83回日本産業衛生学会が「21世紀の新しい産業保健－リスク管理から疾病予防まで－」をメインテーマに、平成22年5月26日（水）から5月28日（金）の間、福井大学医学部環境保健学領域 日下幸則教授を企画運営委員長として、福井市内のフェニックス・プラザと福井県国際交流会館で開催されました。日本産業衛生学会の歴史上はじめての福井開催とのことです。私は26日に大阪駅からサンダーバードに乗り2時間弱で福井駅に到着しました。福井駅から会場まではシャトルバスが運行されていたので、そのバスに乗り、会場のフェニックス・プラザに到着しました。

特別講演は諏訪中央病院名誉院長鎌田實先生の「心と体のがんばらない健康法」でした。鎌田先生は著書「がんばらない」がベストセラーとなったことが知られており、またチェルノブイリ原発事故による放射能汚染地帯の病院への支援や、イラクに医療支援を行うなど国際的にも活動されている先生です。幅広い体験に基づいた先生の講演は時に笑いあり、また時に涙を誘う物語もあり、BGMとして先生が制作されたCDによる音楽も流れ、心に沁みる内容でした。余談ですが、この講演が始まる少し前に会場に着くと、日本アイ・ビー・エムの鈴木純子保健師がおられたので、近くに席を取り、近況の話の合間に日本生命の藤岡滋典先生にこの「学会に参加して」の原稿を依頼されてことを話していたちょうどその時、その藤岡先生が近くにいらっしやっただけには驚きました。

その他では教育講演1「死亡率減少を達成するために大腸がん検診に求められるもの－地域がん登録との記録照合による大腸がん検診の精度を含めて－」（福井県健康管理協会副理事長、県民健康センター所長松田一夫先生）に参加させていただきました。精度の高い福井県のデータの解析による講演は説得力のある、有益な内容でした。講演後にフロアからの質問も多くあり、がん検診に対する関心の高さが窺えました。会期中福井は雨模様で肌寒さを感じましたが、会場内は参加者も多く、熱気にあふれていました。今回の学会で多くの参加者が有益な情報を得られたことと思います。

## 第15回近畿産業医部会研修会 『雇用の多様化と 安全衛生の課題』のご案内

平成22年9月11日（土曜日）午後2時～5時に大阪市立大学 医学部学舎 4階大講義室にて開催する第15回 近畿産業医部会研修会をご案内いたします。

本研修会は、『雇用の多様化と安全衛生の課題』と題し、産業構造の多様化、複雑化に伴う安全衛生の課題について検討することを目的とします。

正規社員の減少、パートタイム労働者、派遣社員、契約社員、嘱託社員など「非正規社員」の増加、また業務ラインや一部作業の請負会社への委託の増加で、同一事業所内に様々な雇用形態、就業形態の労働者が混在し、このことが単純作業や危険作業の非正規社員への移行を増加させ、結果的に非正規社員の労働災害の発生が深刻な問題となっています。

本研修では、はじめに非正規雇用労働者の健康と労働に造詣が深く、産業衛生学会 非正規雇用研究会世話人も務めておられる産業医科大学 副学長 森 晃爾先生から、『働き方が多様化する中での産業保健サービスの課題』というテーマで基調講演を頂戴します。

シンポジウム『構内で働く非正規社員の有害業務管理について』では、三菱電機伊丹製作所 健康増進センター 萩原 聡先生に専属産業医の立場から、財団法人 京都工場保健会 櫻木 園子先生に嘱託産業医の立場から、またパナソニック健康保険組合 産業衛生科学センター 坂本 史彦先生に企業グループ内の健診機関としての立場から講演をいただき、全体で討議を行って非正規社員の安全衛生の課題や提言を検討したいと考えております。

本研修は、日本医師会認定産業医制度 生涯研修に申請中です。産業医の先生方をはじめ、産業看護職の方、人事・労務・産業保健実務担当の方など多数のご参加をお待ちしております。

### 〈参加申し込み先、申し込み方法〉

第15回 近畿産業医部会研修会実行委員会事務局  
(実行委員長 永田秀敏)  
パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社 奈良健康管理室  
〒639-1188 奈良県大和郡山市筒井町800番地  
FAX 0743-56-5256

受付締切 平成22年8月31日（火曜日）

『第15回近畿産業医部会研修会』参加希望と明記の上、①氏名 ②勤務先名（職種）③連絡先FAXもしくは電話番号 を楷書で記載し、FAXまたは官製はがきで実行委員会事務局までお申し込みください。

定員超過のため参加していただけない場合にのみ連絡します（受講票の発送はいたしません）。

## 産業看護部会からのお知らせ

### “産業看護部会総会を終えて”

副部会長 鮫島真理子

5月28日、第83回日本産業衛生学会（福井県）に於いて、2010年度産業看護部会総会が開催されました。部会発足から18年目を迎えた本会では、時代の変化に対応でき産業看護職への期待にこたえられる実践力、専門性を備えた産業看護職の資質の維持、向上、育成に重点を置いた活動方針が発表されました。そのために長期ビジョンにたった継続教育システムの再構築、国際交流推進、部会会員数の増加、全国的な組織化推進を目指していくことが強調されました。

昨年7月に議員立法において、保健師・助産師・看護師の教育課程について60年ぶりに保助看法が改正されました。4月1日から新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務となり、職域においても新人教育、現職教育研修について厚生労働省ワーキング委員会で検討されることになりました。教育の見直しにともなって、産業看護学の構築や産業看護職の強化に関して、学会として尽力していかなければいけない時期にきているため早急な対応が求められているとのことでした。

活動のスタートとして、8月6日から横浜で「アジア産業看護ジョイント学術集会・ACOHN」が開催されます。アジア各国との交流を深める機会になればと願っております。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

さて、9地方会の中で関東の次に産業看護部会員数が多いのが近畿です。現在252名が入会しておりますが、近畿産業看護部会としては部会会員数増加にむけてのPRと、研修会の充実、研究活動等積極的に進捗してまいります。

一人でも多くの方に会員になっていただき、皆さまと一緒に産業看護部会の発展にむけて取り組んでいきたいと考えております。活動へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

## 産業衛生技術部会からのお知らせ

技術部会 河合 俊夫

技術部会では総会および研究会に向けて準備をしています。シックハウス症状とメンタルヘルスとの関連が注目を浴びており、これら有害物質環境とメンタルヘルスとの関係をメンタルヘルス分野の専門家と測定分野の専門家との合同研究会を模索しております。今回のニュースには詳細な内容と日時をお知らせします。



## 私たちの職場 (18)

# 大阪労働衛生総合センター

所長 住野 公昭

### 昭和63年2月開所

昭和61年、国(旧労働省)は、健康障害を予防するために事業者が実施する労働衛生管理対策を援助するため、西日本地域の中心である大阪市に、①健康診断②作業環境測定③化学物質の分析の三つの機能と労働者の健康づくり運動推進のための体育施設機能を持たせた「総合的な労働衛生対策推進のための施設」の建設を構想し、法務局江戸堀出張所の跡地で空き地となっていた西区土佐堀の地に、「大阪労働衛生総合センター」を建設することとしました。施設は、昭和63年2月に完成、その施設運営が中央労働災害協会(略称「中災防」)に委託され、事業を開始しました。

それまで、関西における中災防の衛生技術サービスは、堺筋本町で「近畿安全衛生サービスセンター」の名称で実施して来ましたが、これを機会に、組織名称も「大阪労働衛生総合センター」として独立させ、新たに事業を進めることにしました。ちなみに、初代センター所長は大和田国男先生でした。

### 大阪センターの4つの事業

設立の趣旨に従い、大阪センターでは、①作業環境測定については、事業場における粉じん、有機溶剤、特定化学物質、鉛など金属類、騒音、VDT作業の照度、局所排気装置の制御風速など、法令で定められた有害物質の測定のほか、作業場の作業環境改善のための測定を実施しています。測定結果に基づく改善措置の提案や局所排気装置の点検、化学物質等安全データシート(MSDS)の活用の仕方など、作業環境のフォローアップをします。②健康診断については、一般定期健康診断のほかに、有害な化学物質、振動・騒音、VDT作業などについて、特殊健康診断を実施しています。診断結果に基づき、医師や専門スタッフが、作業条件や作業環境条件を考慮した総合的な健康管理方法についてアドバイスします。③化学物質の分析については、尿、血液、毛髪などの生体試料中の有害物質とその代謝物のほか、空气中、原材料中の遊離けい酸、石綿、金属類・有機溶剤などの有害物質の分析を行っています。要望に応じて、サンプリング法や分析法を新たに開発した上で、分析データを提供しています。

最近では、こうした分析技術を各方面で活用していただき、オフィスや学校で問題となっている、「シックハウス症候群」の発症要因となる、ホルムアルデヒド、VOC(揮発性有害物質)、などについて分析、調査・研究、相談を行っています。

④心とからだ両面の健康づくりについては、THP指導者の養成研修会、メンタルヘルス対策に関する専門

研修会を開催(年間30回以上)しています。

最近では、どの事業所でもメンタルヘルスへの対応に苦慮しており、当センターでは、従業員が職場で感じているストレスの状況や心身への影響をチェックし、その結果から一人ひとりへのアドバイスレポートと、職場ごとの集団集計レポートを提供する「中災防ヘルスアドバイスサービス」を実施しています。この調査結果を元にした管理者教育なども引き受けています。

さらに、厚生労働省から職場における「メンタルヘルス対策推進事業」を受託し、各事業場にメンタルヘルス専門家を派遣し、対策の計画作り、組織作りのアドバイスをを行っています。

### 発展途上国への技術移転・国際協力

JICA大阪からの依頼を受け、発展途上国の有害物質による健康障害防止を的確に行うため「職業病予防と環境改善」をテーマに、日本の先駆的作業環境測定、分析技術の移転のため、毎年6、7月の約2カ月間研修生の受け入れを実施しています。現場視察・実習を折り返した研修は、最も効果的な技術移転となり、帰国後の各国の労働衛生レベルの向上に貢献しています。22年度も、中国、フィリピン、マレーシア、ジンバブエから8名の研修生を受け入れています。

以上の業務を、技術・専門スタッフ21名、事務スタッフ4名で対応しています。

### 安全衛生100年をつないで

1912年、大正元年、古河鉱業足尾銅山鉱業所全体に「安全専一」の表示が掲げられ、大正10年には倉敷紡績工場内に「倉敷労働科学研究所」が設置され、昭和、平成へと安全衛生の流れが受け継がれています。今秋から中災防では「安全衛生100年キャンペーン」を展開します。当大阪センターもその流れを滞らせてはならないという責務を感じています。ご一緒に進めていくではありませんか。



写真 22年度JICA研修生と住野所長ほか職員

## 会員の声



### パブリックヘルスマインド教育

近畿大学・医・公衆衛生  
甲田 勝康

平成18年から近畿大学・医学部・公衆衛生学教室に所属しております甲田です。以前は浜松医科大学・公衆衛生学講座や関西医科大学・衛生学講座に所属しており、それぞれ産業保健に関わってきました。今後とも、よろしくお願いたします。

さて、近畿大学では医学部生の4学年で公衆衛生学のコースがあり、そのコースで私は産業保健の各論を教えています。医師国家試験では公衆衛生学領域からはかなりの数の問題数が出題されます。学生は試験に出るという理由ではまじめに取り組んでくれるのですが、一方で、学生に公衆衛生学や産業保健に興味を持ってもらうのは大変難しいです。自然科学的思考ばかりが身についた彼らには社会科学的視点に頭を切り替えるのが困難なようです。私が学生のときも同じで、社会科学である公衆衛生学はあまりピンときませんでした。

近畿大学では医学教育にチュートリアル教育を取り入れています。この教育方法の特徴は、学生が自主的に

勉強する点にあります。まず少人数のグループで与えられた事例について討論し、その中から疑問点や学習点などを抽出し、その後、個人個人が自己学習します。我々教員は、学生が興味を持って自己学習するような事例を作成するのですが、それがけっこう難しいのです。昨年の事例作成にあたっては、私が近畿大学・医学部の産業医も兼任していることから、私が日頃感じている医者の不養生と過重労働をテーマに事例を作成してみました。この事例を通して、産業医の職務や、医師の時間外労働や過労死などについて学生に討論してもらいました。学生にとっては数年後の自分のことですから興味をもって取り組んでくれたと思います。

有名なドイツの病理学者であるRudolf Virchow (1821~1902年) は人類学者でもありました。そして、「医学とは社会科学である。政治とは大規模な医学に他ならない。」という言葉を残し、社会科学としての医学の重要性について訴えました。臨床医はクリニカルマインド、つまり患者個人を診て診療しようとするのに対し、社会医学を志す者は患者個人だけでなく、疾患の背景にある社会を視野にいれて予防や治療を行うところに特徴があります。将来、少しでも多くの医学部生がパブリックヘルスマインドに目覚め、産業保健や公衆衛生分野で活躍してもらいたいと願っています。



### 作業環境測定役割

(株)近畿エコサイエンス  
労働衛生コンサルタント  
村田 和弘

作業環境中の有害物の管理方法として、気中濃度を管理する方法(作業環境測定)とばく露濃度を管理する二つの方法があるが、作業環境中有害物の濃度管理基準に関する専門家会議で意見が二分されたため、最終的には行政的な判断で作業環境測定が採用された。

このような経緯から、長年作業環境測定関係の研究発表では、ばく露に関する演題を避け、また特殊健康診断で尿中代謝物の検査が義務付けられた時点(1989年)でも労働省(厚生労働省)は、ばく露という表現を避けているようであった。一方、個人ばく露との関わりが深い有機溶剤中毒研究会等では、作業環境測定制度の問題点を指摘し、個人ばく露濃度の測定を肯定する発表が行われていた。

当時、私はどちらか一方を肯定するのではなく総合的に管理する視点から、作業環境測定の補完に関する調査研究を行っていたが、当初は作業環境測定の批判者と受け止められているようであった。

作業環境測定法が制定(1975年)され30年以上経過し、厚生労働省の砒素及びその化合物に係る特殊健康診断の実施のためのガイドライン(2009年)などでは、当該労働者のばく露の判断基準の一つとして作業環境測定結果(管理区分)を示している。

特殊健康診断の有所見率が、作業環境測定が制定された後5.4%から2.5%に半減し、さらに測定結果の評価と措置が法令上体系化された後1.4%まで減少していることなどから、作業環境測定が作業環境の改善を介して有害物質取扱者の健康障害の予防に大きく貢献していることは明らかである。

一方、じん肺が発症した事業所を対象に、私が労働衛生診断を実施した事業所で作業環境測定結果が良好な事例が数例あり、作業環境測定結果をばく露の指標として利用する際、留意する必要がある。

## 会員の声



### アートな午後を過ごして

財団法人京都工場保健会  
森口 次郎

先日、同志社大学で開催された「アートの力〜クリエイティブ経済と21世紀社会〜」というシンポジウムに参加しました。中学・高校時代に好きだった歌手の佐野元春さんがシンポジストだったので彼の顔が見たい！と言うミーハーな理由からの申し込みでした。

基調講演は、テレビ番組「日曜美術館」の進行役をされている東大の姜尚中教授でした。彼は、「死の予感など絶望から最高のアートが生まれることがあり、そのため晩年に名作が多い。難解な作品の前に数十分ほど立っていると自分が溶けるような無垢な感覚を味わい、自分なりの理解が出来る。」など様々な投げ掛けをされました。難解な作品の前でねばったら自分が溶け出すかどうか皆さんもぜひ試していただきたいと思います（僕はこれまでは素通りしていましたが（苦笑））。2番目に登壇した劇作家の平田オリザさんは大阪大学でロボット演劇をプロデュースされており、彼

がエンジニアにロボットの動きの微調整を指示するとロボットに生命が宿り、観客が感動の涙を流すことがあると紹介されていました（ロボット工学の専門家はその変化を見ると、自分の限界を感じてがっかりされるそうです）。

高尚な内容に消化不良を感じながらも（苦笑）、引き込まれ始めたところに佐野さんが登壇しました。彼は優れた詩を書くためのポイントを論じました。示されたのは、「他者への優しいまなざし」、「生存への意識」、「自己憐憫ではない」、「共感を集めることに自覚的」、「いいユーモアの感覚」などです。彼のようなロック歌手は理屈抜きに感性で作詞作曲して「分からないヤツは聞かなくて結構！」という感じなのかと思っていたので、これらの項目を聞いて意外に感じました。姜教授が示された「絶望」から他者に届く作品を作るにはこれらの要素が必要なのでしょうね。仕事柄、追い込まれている人と接する機会の多い僕はユーモアの感覚の大切さに強く共感しました。最後のシンポジスト岡部あおみさんも含めて皆さん興味深い内容を示され、芸術との関わり方の視野が広がるよい機会になりました。近いうちにまた美術館に行ってみます。クリエイティブ経済とは何なんだって？さっぱり分かりませんでした（笑）。



### 充実した時間

エクソンモービル(株)  
医務産業衛生部  
小原 直子

私は、今おかれている立場にとっても感謝しています。産業保健師として9年目。うち2年は産休・育休で休職していましたが、現在は3歳、6歳の子どもたちを育てながら大好きな仕事を続けています。このワーク・ライフ・バランスが保てるのも職場の理解と家族の協力、そしてママ友の励ましがあればこそだと思います。

私の1日は朝6:00、絡まっている子どもたちの手を解き、そっとすり抜けることから始まります。私の担当事業所である東燃ゼネラル石油(株)和歌山工場は8:15始業のため、7:00にはモードを切り替え出発です。そして16:35まで仕事をしています。今の時期はちょうど健診時期で大忙し。定時に帰れないこともしばしばです。しかし、子どもたちを迎えに行くという時間制限があることで、集中して仕事に取り組んでいます。また工場ではワーク・ライフ・バランスを積

極的に勤めており、毎週水・金曜日はノー残業デーです。そうした体制があるからこそ、勤め続けられているのだと感謝しています。

帰宅後も子どもの世話や家事に追われ、あっという間に時間が過ぎます。そして私の最も幸せな時間がやってきます。それは子どもたちと一緒に眠る時。賑やかだったのが嘘のように静かに寝息をたて始めます。私は両手に違う大きさの手のぬくもりを感じながら今日の出来事を思い出し、目を閉じます。安心感があり私が守られているようで、とても幸せなひと時です。

今、自分だけの時間はごく僅かだけれど、その分濃縮した時間を過ごせ、充実していると感じます。

自分の健康は自分で守る、という自立に向けての教育やサポートという面では産業保健師の仕事でも私生活でも共通していることだと思うので、今後さらに勉強し経験を積んでいきたいと考えています。

育休明け初日、日記にはこう書いてありました。『やっぱり私は産業保健師として働くことが好き。今日は楽しかった！』と。これからも温かい従業員や優秀なスタッフたちに囲まれながら、家事や育児と仕事のバランスを保ち、今日1日を大切に過ごしていきたいと思えます。

## 第20回 産業医・産業看護 全国協議会案内

### メインテーマ

「働きがいのある職場環境と産業保健の役割」

平成22年10月13日(水)午後～16日(土)

<http://ncopn20.mice-co.jp/>

詳細は産業衛生学雑誌52巻3号(2010年5月号)A31  
をご覧ください。

## 第84回日本産業衛生学会のご案内

<http://jsoh84.umin.jp/>

### メインテーマ

働くということと産業保健  
—その原点に還って—

1. 会期：学会 平成23年5月18日(水)～20日(金)  
特別研修会 5月21日(土)

2. 会場：ニューピアホール  
東京都港区海岸1-11-1

ホテルアジュール竹芝

東京都港区海岸1-11-2

東京都立産業貿易センター浜松町館

東京都港区海岸1-7-8

3. 今後のスケジュール(後日、日程変更の可能性あり)

#### 【演題申込期間】

平成22年11月25日(木)～平成23年1月6日(木)

#### 【委員会・研究会等申込期間】

平成22年11月19日(金)～12月17日(金)

#### 【共催セミナー申込締切】

平成22年12月17日(金)

#### 【広告申込締切】

平成23年1月14日(金)

#### 【機器展示・書籍展示申込締切】

平成23年2月25日(金)

#### 【参加者事前登録締切】

(学会参加・懇親会・特別研修会参加)

平成23年2月25日(金)

4. 本部事務局

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学教室内

E-mail: [jsoh84@ks.kyorin-u.ac.jp](mailto:jsoh84@ks.kyorin-u.ac.jp)

TEL: 0422-47-5512 内線3454

FAX: 0422-44-0841

5. 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田3-3-10

梅田ダイビル4階

株式会社JTBコミュニケーションズ

コンベンション事業局内

E-mail: [jsoh84@jtbcom.co.jp](mailto:jsoh84@jtbcom.co.jp)

TEL: 06-6348-1391

FAX: 06-6456-4105

## 会員の異動 (敬称略)

### 〈新入会員〉

篠原博子 パナソニック健保 健康管理センター  
(株)クボタ  
片岡 糸 ジャスコ株式会社  
内藤あけみ 神戸大学大学院経済学研究科  
宮本恭子 帝塚山大学現代生活学部  
石塚理香 奈良県立医科大学  
古西 満 京都大学保健管理センター  
安藤昌彦 千里中央病院  
泊 慶明 (株)近鉄百貨店 健康管理室  
岸田敦子 学校法人 行吉学園  
三谷比奈子 パナソニック情報システム株式会社  
古田克利 富士通 関西システムラボラトリー 関西健康推進センター  
神澤和子 アリコジャパン 大阪駐在所  
木本絹子 住友電気工業(株)大阪製作所 健康管理センター  
山本健一郎 大阪府警察本部警務部健康管理センター  
吉田悦美 内海美穂子  
内海美穂子 オリオノ和泉病院  
西田 茂 三菱化学(株) 大阪支社  
岡田優子 三菱電機コントロールソフトウェア(株)  
岡本 隆 パシフィックコンサルタンツ(株)  
吉田亜希 秋田歯科クリニック  
秋田康充 神戸大学大学院保健学研究科  
上杉裕子 パナソニックプラズマディスプレイ(株) 尼崎  
橋村有賀里 みずほFG 大阪健康開発センター  
長畑 優 大阪府警察本部警務部健康管理センター  
横田恵理 大阪府警察本部警務部健康管理センター  
渡邊由理子 川崎重工業(株)兵庫工場 健康管理センター  
船矢寛治 パナソニック(株)エナジー社 健康管理室  
中村明日奈 (財)京都工場保健会  
河合早苗 パナソニック(株)セミコンダクター社 健康管理室  
浦谷 環 パナソニック関係会社連合健保  
小平恵利 パナソニック健保 産業衛生科学センター  
林田智子 大阪高島屋健康管理室  
鈴木裕子 (株)平和堂 健康管理室  
川村敦子 (財)近畿健康管理センター KKCウエルネス神戸診療所  
三宅弘之 野洲病院(非常勤)  
今井麻里 パナソニック健保 健康管理センター 保健看護部  
中島路子 パナソニック健保 健康管理センター 保健看護部  
市川晶子 株式会社フジシール  
大場瑞枝 パナソニック健保 健康づくり推進室  
佐藤祐子

### 〈再入会〉

井内淳子 京都大学大学院医学研究科 医療疫学  
安田祐子 近松クリニック  
大浦明子 和歌山県立医科大学公衆衛生学  
福永幸秀 和歌山県立医科大学公衆衛生学  
佐藤由香里 和歌山県立医科大学公衆衛生学  
竹上未紗 パナソニック(株)AVCネットワークス社 北門真健康管理室  
近松典子 関西医科大学 健康科学センター  
西尾信宏 全国健康保険協会  
古澤俊一  
牟礼佳苗  
本迫郷宏  
赤石理佳子  
岡村 愛  
村山留美子  
木村 稜  
辻 さよ子  
青木美恵  
中家 和子

## 幹事会議事録

### 2010年度第1回定例幹事会

日時 2010年6月5日(土)11:00-12:10

場所 大阪市立大学医学部学舎18階会議室

出席：車谷 清田 岡田章 廣部 大脇 山田 廣田  
植本 西尾 森岡 河合 埜田 夏目 宮上  
上田 圓藤 木村 久保田 河野 佐野 鮫島  
中西 日高 篠岡 篠吉 土手

欠席：小泉 竹村 宮下

(敬称略・順不同)

#### 1. 昨年度物故会員の報告 (2頁 総会議事録参照)

#### 2. 議事

- (1) 平成21年度事業報告
  - (2) 平成21年度決算報告
  - (3) 平成21年度監査報告
  - (4) 平成22年度事業計画 (案)
  - (5) 平成22年度予算 (案)
- (1)から(5)はいずれも異議なく承認された。
- (6) 第50回近畿産業衛生学会(滋賀)の進捗状況
  - (7) 第51回近畿産業衛生学会(奈良)の準備状況
  - (8) その他

- ①選挙管理委員会からの報告
- ②地方会ホームページ等見直し検討委員会
- ③海外勤務者健康管理研修会の協賛について  
久保田幹事から提案の海外勤務者健康管理研修会への協賛について承認。

- ④本部理事会からの報告  
岡田章理事から、専門医制度の改正の件、公益社団法人化を目指すことが承認された。最終決定は平成24年度の総会で行う予定であること、公益社団法人化にともない会計は中央で行うこととなることや積立金の取り扱いが異なること、領収書がすべて必要になることなどについて説明があった。

- ⑤規定類検討委員会からの報告
- ⑥地方会ニュースの発行状況について
- ⑦その他

次回幹事会を9月6日(月)に決定。

## 代議員会議事録

### 2010年第1回定例代議員会

日時 2010年6月5日(土) 12:20-12:50

場所 大阪市立大学医学部学舎4階小講義室2

#### 1. 開会

#### 2. 代議員会の成立

5月15日現在の代議員数110名のうち出席39名(委任状34名)。現在数の過半数の出席により代議員会は成立(地方会会則第13条)

#### 3. 昨年度物故会員の報告 (2頁 総会議事録参照)

#### 4. 地方会長の挨拶

#### 5. 議長選出

河合俊夫会員(中災防大阪労働衛生総合センター)を選出

#### 6. 議事 (詳細は総会議事録参照)

- (1) 平成21年度事業報告
  - (2) 平成21年度決算報告
  - (3) 平成21年度監査報告
  - (4) 平成22年度事業計画 (案)
- (1)から(4)はいずれも異議なく承認された。
- (5) 平成22年度予算 (案)

予算案に示された本部助成額190万円(1500円/人×近畿会員数)は額が人数に合わない不自然さがあるとの指摘があった。これを受けて、車谷会長は修正案を提示することを提案し承認された。

- (6) 第50回近畿産業衛生学会(滋賀)の進捗状況
- (7) 第51回近畿産業衛生学会(奈良)の準備状況
- (8) その他

- ①選挙管理委員会からの報告
- ②地方会ホームページ等見直し検討委員会
- ③規定類検討委員会からの報告
- ④地方会ニュースの発行状況について
- ⑤その他

#### 7. 議長解任

#### 8. 閉会



**POCARI SWEAT 30th Anniversary**

大塚製薬株式会社大阪支店  
 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40  
 TEL:06-6441-8392



# Na 49mg

Na(ナトリウム)は、カラダから失われた水分を回復するのに大切です。ポカリスエットは100mlあたり49mgで、暑いカラダをすみやかとうおします。

厚生労働省※からの発表では、100ml中に40～80mgのナトリウム量を含んだ飲料を推奨しています。

※厚生労働省から平成21年に発表された「熱中症における熱中症予防について」参照



**水よりも、**  
**ヒトの身体に**  
**近い水。**

## 第50回近畿産業衛生学会(第2報)

学会長 木村 隆

(財団法人近畿健康管理センター 理事長)

### 1. 開催日時と場所

期 日：平成22年11月14日（日）  
会 場：「ピアザ淡海」(滋賀県立県民交流センター)  
〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜一丁目1番20号

「非正規雇用の現状」脇田 滋（龍谷大学）

15：10～17：00 シンポジウム

「一隅を照らす、産業保健の忘れ物」

座長 木村 隆（財団法人近畿健康管理センター）

埜田 和史（滋賀医科大学）

「小規模事業場と高齢者の特徴、健康診断データから」

寺田 哲也（財団法人近畿健康管理センター）

「介護労働の現状」

北原 照代（滋賀医科大学）

「女性が働きやすい職場と企業の対応」

志摩 梓（株式会社平和堂）

17：00～18：30 懇親会（ピアザ淡海）

### 2. 演題募集要項

#### (1)演題申し込み

①演題名、②発表者名、③所属、④簡単な要旨、⑤連絡先 等を9月11日(土)までに学会事務局宛に申し込んで下さい。「演題申込ファイル」をe-mail：kkc005@zai-kkc.or.jpに請求して頂ければ、添付ファイルで返信させていただきます。添付ファイルにご記入の上、お申込み下さい。本ニュース同封の演題申込用紙にご記入いただいて、FAXでお送りくださっても結構です。

#### (2)発表抄録原稿・概要原稿

申し込み受理後、学会事務局から「発表抄録原稿用紙(1600字以内、プログラム用)」と「概要原稿用紙(400字以内、プログラム用)」の2つのファイルをEメールに添付して送信します。それぞれのファイルに原稿を作成し、Eメール送信してください。原稿の締切りは10月15日(金)17時です。

#### (3)口演発表用Power Pointファイル

発表は口演で、一演題11分(口演7分、質疑4分)の予定です。発表用ファイルは、Windows XPのPower Point 2003にて作成くださって、11月5日(金)17時までに事務局宛にお送り下さい。Eメール添付か、またはCD郵送でお願いします。

### 3. プログラム(予定)

9：20～11：20 一般演題(口演)

11：20～12：00 教育講演

「産業歯科保健への期待」

加藤 元 産業衛生学会産業歯科保健部会長

12：10～12：40 幹事会

12：40～13：10 代議員会

13：10～14：10 特別講演

座長 大道重夫(財滋賀保健研究センター)

「産業保健における、一隅を照らす」

千日回峰行者 藤波 源信 師

14：10～15：10 基調講演

### 4. その他

- ・特別講演・基調講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定を申請予定です。日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定を申請予定です。
- ・学会参加申込みは、学会当日受付いたします。(事前申し込みは必要ありません)
- ・学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員は2000円です。懇親会費は3000円です。

### 5. 学会事務局(演題申込み先及び問い合わせ先)

財団法人近畿健康管理センター

第50回近畿産業衛生学会事務局 中村 薫

〒520-0812 滋賀県大津市木下町10番10号

TEL：077-525-3233(代) FAX：077-525-3900

## 編集後記

先日、福井で開催された産業衛生学会に参加しました。垣本洋希先生の学会印象記にもありますが、「がんばらない」などの著書でおなじみの鎌田實先生の特別講演があり、強く印象に残りました。鎌田先生は地域医療において「あたたかい心の医療」を実践・提唱され、病気だけではなく生活、人生まで含めた全人的医療の大切さを説かれています。翻ってこの姿勢はまさに職域の健康管理に携わる私達にも共通するものであり、改めて心したいと思った次第です。

(日本生命本店健康管理所 藤岡滋典)

編集委員(五十音順)

河合 俊夫

久保田昌詞

廣部 一彦(編集責任)

藤吉奈央子

山田 誠二(編集総括責任)

木村 隆

中西 一郎(広報事務局)

藤岡 滋典

宮下 和久